

<第19回調査>

2011年1月4日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2010年12月21日(火)13:00~2010年12月28日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は、881件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

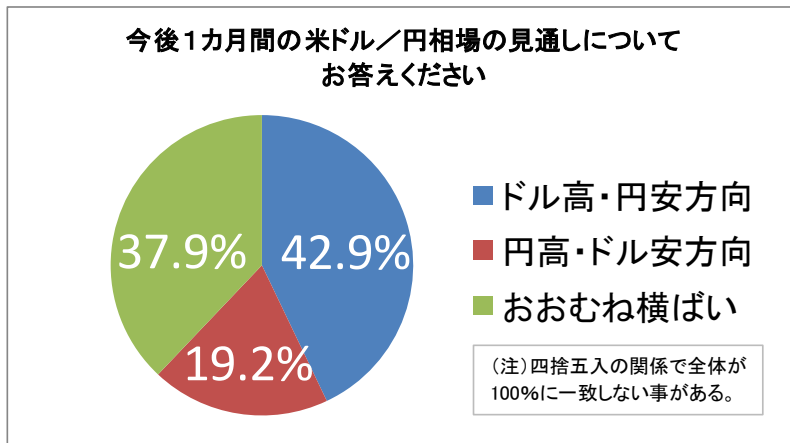
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第19回調査結果略報：ドル円予想DIは引き続きドル高・円安方向へ】

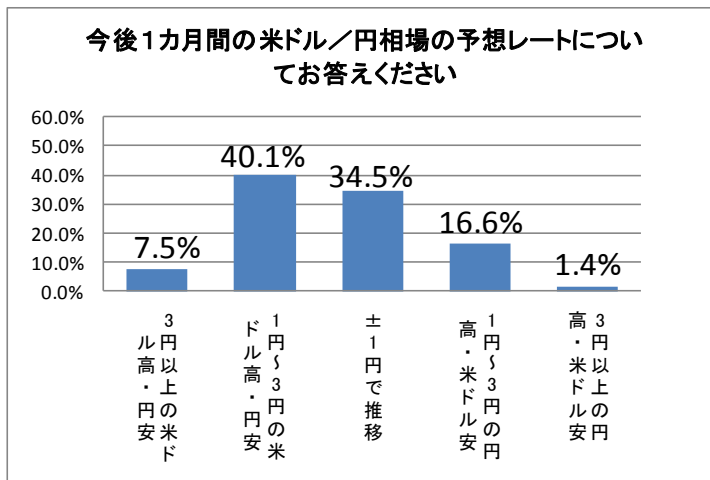
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が42.9%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が19.2%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+23.7%ポイントとなり、前回調査の+40.4%ポイントに続きドル高・円安方向となったものの、DIのプラス幅は大きく縮小した。調査期間中のドル円相場が83円台後半から82円台半ばへとドル安・円高気味の推移となったこともあり、調査開始以来最高のプラスDIを記録した前回調査におけるFX投資家のドル強気の姿勢はやや揺らぎつつあるのかもしれない。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

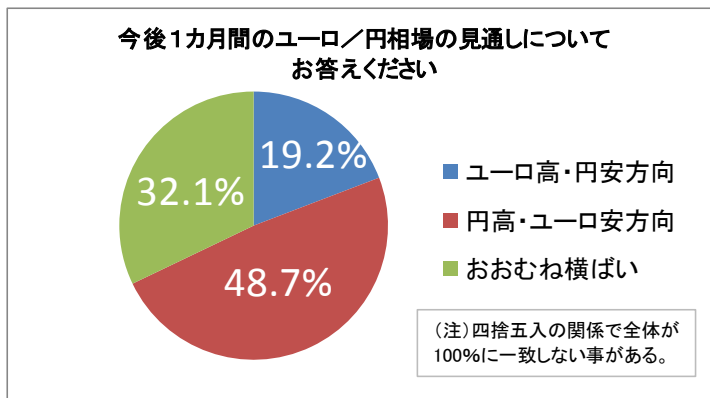
「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が40.1%と最も多く、次いで「±1円で推移」が34.5%、「1円～3円の円高・米ドル安」が16.6%、「3円以上の米ドル高・円安」が7.5%、「3円以上の円高・米ドル安」が1.4%の順になった。ヒストグラムの形状は、ドル高・円安方向に傾いており、問1でドル高・円安方向を予想する向きが多数を占めた結果と整合的と言える。もっとも、ドル高・円安を予想した合算割合は47.6%と、前回調査の61.3%から減少しており、足元の円高傾向を受けてドル強気派はやや勢いを失いつつあるようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

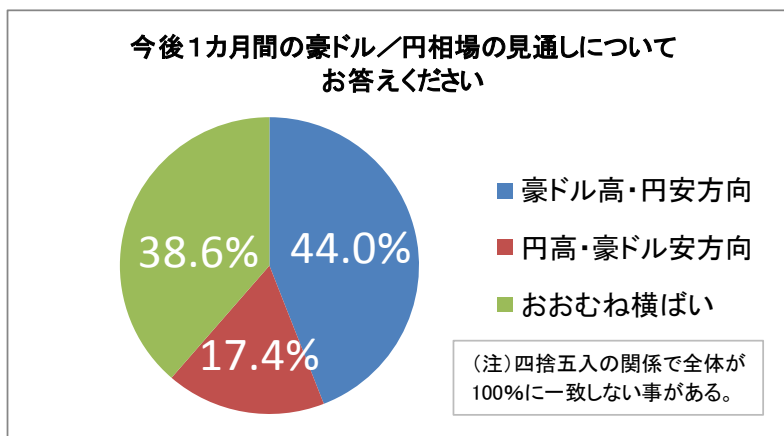
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が19.2%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が48.7%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲29.5%ポイントとなり、3か月連続での円高・ユーロ安予想となった。マイナス幅は前回調査の▲6.4%ポイントから大きく拡大しており、ギリシャ・ショック時の5月調査時点の▲37.7%ポイントに次ぐ大幅マイナスとなった。調査期間中のユーロ円相場は110円台半ばから108円台に下落しており、根強く蒸し返される欧州債務問題を背景に一段のユーロ安を予想するFX投資家が多数を占めた。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が44.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が17.4%となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は+26.6%ポイントと、4か月連続で豪ドル高・円安方向となった。2009年6月の調査開始以来、今年8月の調査で▲1.1%ポイントとなった以外は全てプラスを記録しており、FX投資家の豪ドル人気の高さを改めて裏付ける結果となった。調査期間中の豪ドル/円相場は概ね83円台で推移し明確な方向感を感じられなかったが、対ドルや対ユーロでは円高が進んだ中、豪ドルに対しては円がほぼ横ばいで推移した一因として、こうしたFX投資家の豪ドル買い意欲の強さを挙げる事もできそうだ。

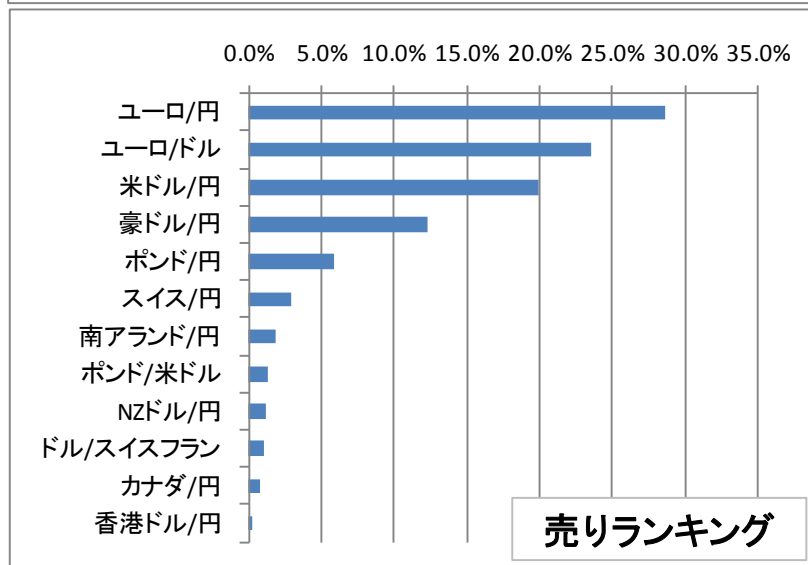
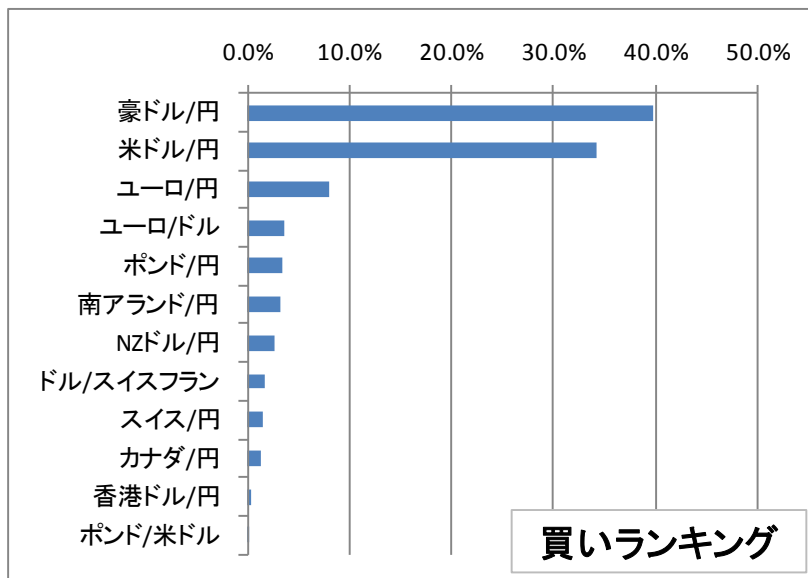


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(39.7%)、2位ドル円(34.3%)、3位ユーロ円(7.9%)、4位ユーロドル(3.6%)、5位はポンド円(3.4%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(28.7%)、2位ユーロドル(23.6%)、3位ドル円(20.0%)、4位豪ドル円(12.3%)、5位ポンド円(5.9%)となった。「買い」で注目の通貨ペアでは、前回、前々回調査で1位となっていたドル円を逆転し、豪ドル円が1位に返り咲いた。豪ドル円については「売り」で注目の通貨ペアでも12.3%という比較的高い回答割合を獲得しており、強気・弱気の相場観に関係なく「売買対象」としての注目度の高さを感ぜさせる結果となった。また、「売り」で注目の通貨ペアにはユーロ円とユーロ/ドルが1位・2位に並び、根強く蒸し返される欧州の債務・信用不安がFX投資家心理に反映されているようだ。

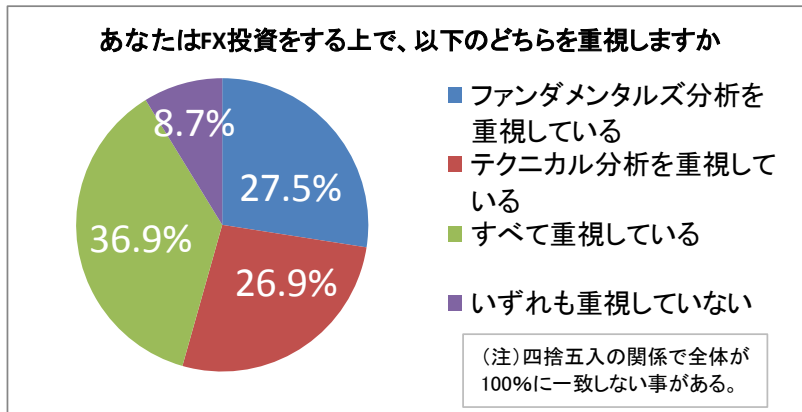


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

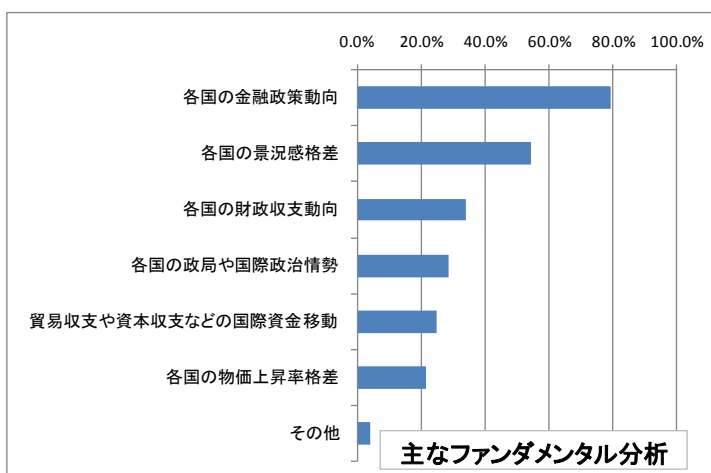
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が27.5%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が26.9%とほぼ拮抗する結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が36.9%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」が8.7%であった。調査開始以来、回答割合に顕著な変化は見られず、FX投資家の分析手法に対するスタンスはほぼ確立されていると言って良さそうだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

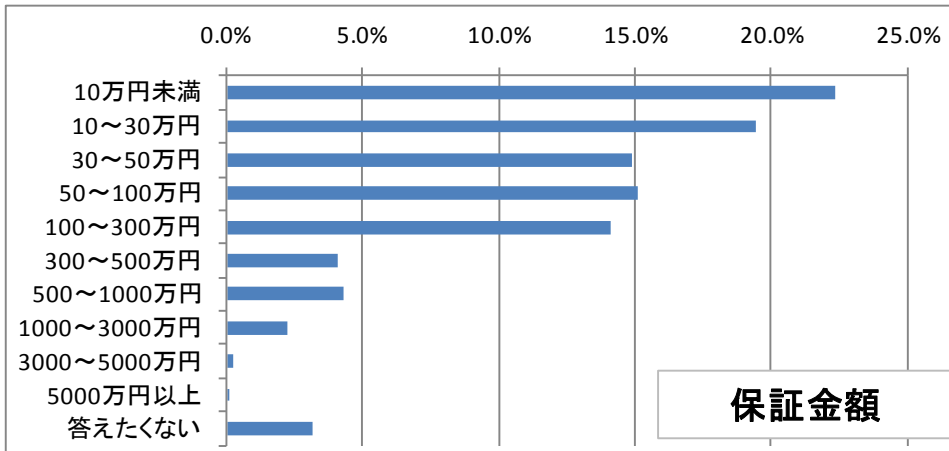
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場動向要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(79.5%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(54.5%)」、「各国の財政収支動向(33.9%)」、「各国の政局や国際政治情勢(28.7%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(25.0%)」の順に続いた。上位の順位や回答割合に大きな変化はないが、「各国の財政収支動向」を挙げた割合が前回調査(17.9%)に比べほぼ倍増している点が興味深い。欧州債務問題への関心の高さに加え、足元の米国長期金利の上昇の一因として財政悪化に対する懸念が挙げられており、これらが為替市場でも度々話題となった事と無縁ではなさそうだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

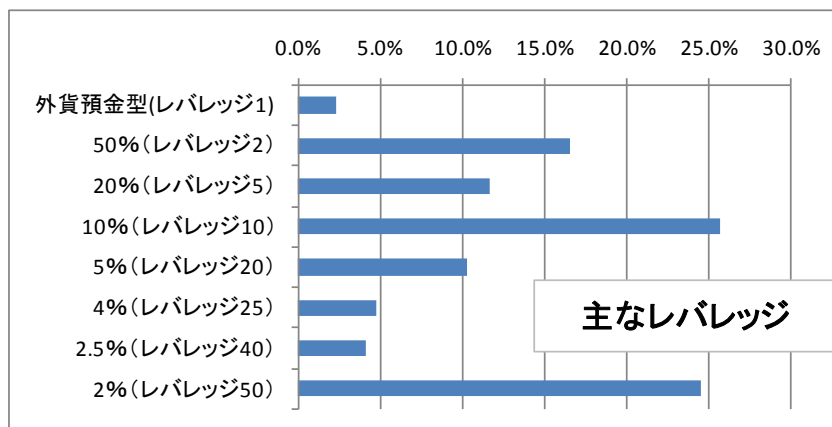
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満(22.4%)」と答えた割合が最も多かった。以下、「10～30万円(19.4%)」、「50～100万円(15.1%)」、「30～50万円(14.9%)」、「100～300万円(14.1%)」、となった。50万円以下の保証金で取引を行うFX投資家が半数以上を占める傾向に調査開始以来大きな変化はなく、小額の保証金で取引が可能なFX投資の特性を良く現わしている。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「10%(レバレッジ10)」と答えた割合が25.8%と最も多く、以下、「2%(レバレッジ50)」が24.5%、「50%(レバレッジ2)」が16.6%、「20%(レバレッジ5)」が11.7%、「5%(レバレッジ20)」が10.3%と続いた。順位も回答割合も前回調査とほぼ同じ結果となっており、2010年8月のレバレッジ規制以降のFX投資家のレバレッジ選択のスタイルは、ここにきてほぼ確立されたと言えそうだ。今後については、上限が4%(レバレッジ25)となる2011年8月のレバレッジ規制第2弾に向けて、現在2%(レバレッジ50)を選択しているFX投資家層を中心に、そのスタイルがどのように変化していくのか見守りたい。

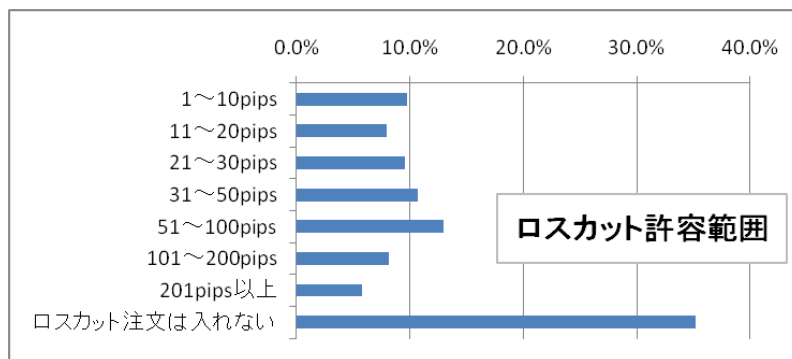


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

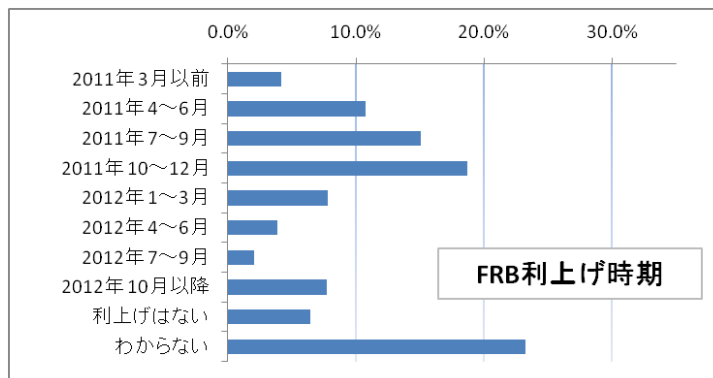
問10: ロスカット注文を入れる際、約定レートから何ポイント(pips)かい離して入力する事が多いですか？(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、「ロスカット注文の際のロスカット注文を入れる際、約定レートから何ポイント(pips)かい離して入力する事が多いですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「ロスカット注文は入れない(35.2%)」と答えた割合が最も多く、以下「51～100pips(12.9%)」、「31～50pips(10.7%)」、「1～10pips(9.8%)」、「21～30pips(9.5%)」と続いた。ロスカット注文を入れないFX投資家が3割以上にも上る事が明らかになったが、その理由として挙げられた中では「低レバレッジでの投資だから」、「長期保有が前提だから」、「強制的に決済される自動ロスカット制度があるから」といった回答が目立った。また、ロスカット注文を入れると答えたFX投資家の間では、約定レートとのかい離幅の回答割合に大きな偏りは見られない。それぞれの投資スタイルや懐事情に応じて、それぞれのロスカットルールを決めているようだ。



問11: 米国FRBによる政策金利引き上げの時期は？(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、「米国FRBによる政策金利引き上げの時期は？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「わからない(23.3%)」と答えた割合が最も多く、以下「2011年10～12月(18.7%)」、「2011年7～9月(15.1%)」、「2011年4～6月(10.8%)」、「2012年1～3月(7.8%)」と続いた。「2011年3月以前」と答えた割合の4.2%も含めると、2011年中の利上げを予想するFX投資家が半数近くにのぼった。問1や問2で示されたドル高・円安予想の背景は、こうした米国景気に対する楽観的な見方にもあると言えそうだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第19回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、開始後1年半程度が経過し、前年同期との比較も徐々に可能になってきましたが、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
		1月								
	2月									
	3月									

(出所)外為どっとコム総合研究所

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com